

[報告] 2019 年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ中間報告会の実施について

(1) 主旨・目的

本事業の中間時期において、施行中のプロジェクト（以下 PJ）の現状把握と今後の進め方について再調整を図る機会とした。また、自社・自団体以外の他の PJ（学生及び企業）との交流の場を設けることにより、今後の PJ の完遂に向けた創意工夫などのヒントを得ることができ、かつ具体的な修正案や、PJ を進めていく上での課題等の解決策を策定できる場として開催した。

(2) 日時

2019 年 10 月 5 日（土）13：00～18：00

(3) 場所

徳島大学地域創生・国際交流会館 5 階 フューチャーセンター『A.BA』

(4) 参加者

受入先担当者	22 名（12 社）
インターンシップ生	22 名（13 社）
ドン（学内メンター）	5 名（9 社）
学内関係者	1 名
学外参加者	3 名
運営スタッフ	13 名 ※うち 10 名が実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ修了生
合計	66 名

(5) 実施内容

第 1 部、第 2 部では、各プロジェクトの進捗状況をポスターセッション形式で発表し、他のプロジェクト参加者と意見交換を行い、第 3 部では、意見交換で得た意見をもとに、今後の取り組みについて協議し、発表を行った。

タイムスケジュール

時 間	項 目	内 容
13:00-13:10 (10 分)	開会挨拶	
		第 1 部
13:10-13:30 (20 分)	ポスター発表 (各 PJ の持ち時間：2 分)	発表者はポスターデータをスクリーンに表示し、発表した。 なお、会場には全 PJ のポスターを貼り出した。 【発表順】敬称略 ①(株)NDK ②(一社)イーストとくしま観光推進機構 ③(株)テレコメディア ④徳島ヴォルティス(株) ⑤徳島県 南部総合県民局 ⑥(有)竹内園芸
13:30-13:40 (10 分)	興味のある PJ への質疑応答	発表を聞き、興味を持ったチームのポスター前に移動し質疑 応答を行った。
13:40-14:20 (40 分)	ワークショップ①	PJ の垣根を越えての情報・意見交換を行った。 受入先・学生・ドンが PJ の枠を超えてバラバラのテーブルに ついた。

14:20-15:00 (40分)	ワークショップ②	自PJのメンバーで集まり情報共有を行った。
15:00-15:10 (10分)	休憩	
第2部		
15:10-15:30 (20分)	ポスター発表 (各チームの持ち時間：2分)	発表者はポスターデータをスクリーンに表示し、発表した。 なお、会場には全PJのポスターを貼り出した。 【発表順】敬称略 ①(株)QLiP ②(株)AWA-RE ③廣間組(有) ④(有)檜山農園 ⑤(一社)徳島新聞社 ⑥(株)農家ソムリエーズ ⑦(一社)大学支援機構
15:30-15:40 (10分)	興味のあるPJへの質疑応答	7PJの発表を聞き、興味を持ったチームのポスター前に移動し質問した。
15:40-16:20 (40分)	ワークショップ①	PJの垣根を越えての情報・意見交換を行った。 受入先・学生・ドンがPJの枠を超えてバラバラのテーブルについた。
16:20-17:00 (40分)	ワークショップ②	自PJのメンバーで集まり情報共有を行った。
17:00-17:10 (10分)	休憩	
第3部		
17:10-18:00 (50分)	発表 (各PJの持ち時間：3分)	全PJが、今後の取り組み方針及びワークショップで出た意見に対する見解を発表した。
18:00-18:10 (10分)	総括・閉会	
18:30-20:30 (120分)	懇親会	

(6) 実施詳細

①ポスター発表及び質疑応答

各プロジェクトの代表者が参加者全体へ向けて、PJ概要、現在の進捗、今後の取り組みについて、2分間のポスター発表を行った。その後、ポスター発表を聞いて興味を持ったPJに対して、質疑応答の時間を5分間設けた。



②ワークショップについて

ワークショップ①では、PJの垣根を超え、参加者で5～8名のグループをつくり、「現在の進捗及び今後の取り組み方針や、PJ完遂に向けた課題点について、どう解決を図るのか」について、ファシリテーター（本インターンシップ修了生）を起点に協議した。

ワークショップ②では、PJメンバーで集まり、ポスターセッションやワークショップ①で各自が得てきた情報を共有した。また、得た情報をもとに、改めて、今後のプロジェクトの進め方についての協議を行った。第3部では、その協議結果を全体に向けて発表した。

